

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401897		
法人名	有限会社 風の森		
事業所名	グループホーム 風の森		
所在地	長崎県南島原市西有家町長野762番地		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	令和5年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

雲仙岳や有明海を望み、自然環境も良く静かな場所に立地している。
1年を通じて季節を感じることができる多くの木々や果物の木、草花を植栽しており、日々の生活の中でゆっくり過ごすことができる。
入居者が「これまで過ごしてきた生活」を尊重し、家庭的な雰囲気づくりに心掛け「統一したケア・切れ目のないケア」を実践する為、職員はそれぞれ目標を掲げ日々支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム近隣の畑には季節の農作物が植えられ、長閑で自然豊かな場所に立地している。ホームでは理念に基づいた年間目標を掲げ、施設長・管理者と職員が半年毎に個人面談を行ないながら、職員それぞれがチャレンジシートに5つの介護目標を掲げ介護の実践に努めている。家族と地域とのつながりを大切に、常に入居者がこれまで過ごしてきた生活を尊重し、家庭的な雰囲気づくりに心掛け、統一したケア・切れ目のないケアに取り組んでいる。今年からコロナが第5類となったこともあり、地域の秋祭りで神輿がホームの庭に来てお祓いをしてもらい、入居者も参拝することができた。近隣の農家の方から季節の野菜や花などの差し入れがあるなど、日常的に地域住民と挨拶を交わし交流している。正月にはおせち料理、誕生会はプリンアラモード、彼岸には入居者と一緒におはぎづくりを行うなど入居者は楽しみながらホームで過ごされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所、職員の目に入りやすい所に理念を掲示している。職員全員が理念を踏まえ最善のケアサービスが実施出来るよう努めている。	玄関、事務所、職員の目に入りやすい所に理念を掲示している。職員全員が理念を踏まえ最善のケアサービスが実施出来るよう努めている。	理念はホームの目に入りやすい場所に掲示し、職員にも配って毎日確認している。理念に基づいたホームの年間目標を掲げ、施設長・管理者と半年毎に個人面談を行っている。職員はチャレンジシートに5つの介護目標を掲げ、目標の達成度を確認し介護の実践に努めている。家族と地域のつながりを大切にし、入居者がこれまで過ごしてきた生活を尊重し、家庭的な雰囲気づくりに心掛け、統一したケア・切れ目のないケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の秋祭りは毎年参加し地域の方々との交流する機会を作っていたが、感染症の流行により中止となりました。また、周辺の農家の方より野菜・果物・花を沢山差し入れて頂き交流させて頂いている。	地域の秋祭りは毎年参加し地域の方々との交流する機会を作っていたが、感染症の流行により中止となりました。また、周辺の農家の方より野菜・果物・花を沢山差し入れて頂き交流させて頂いている。	代表者が地域の自治会に加入し、地域の情報を入手している。地域の秋祭りは今年からコロナが第5類になり、神輿が庭に来てお祓いをしてもらうなど入居者と関わりを持つことができた。地域の保育園児が神輿を担ぐ姿をホームの窓越しから眺めるなど、地域交流することで入居者の喜びに繋げている。近隣の農家の方が季節の野菜や花などの差し入れがあり、日常的に地域の方と挨拶を交わし交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の施設見学の受け入れを積極的に行っている。また、認知症の方への対応に苦慮されている方々への相談等にも応じる体制を整えている。	地域の方の施設見学の受け入れを積極的に行っている。また、認知症の方への対応に苦慮されている方々への相談等にも応じる体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当・地域代表・民生委員・ご家族・職員が参加し2ヶ月に1回開催している。 施設での取り組み、入居者の現状報告、ヒヤリハットや事故報告等を行い、参加者よりご意見や要望等を伺い、今後のサービス向上に努めている。	行政担当・地域代表・民生委員・ご家族・職員が参加し2ヶ月に1回開催している。 施設での取り組み、入居者の現状報告、ヒヤリハットや事故報告等を行い、参加者よりご意見や要望等を伺い、今後のサービス向上に努めている。	運営推進会議は年6回、地域包括支援センター職員、老人会代表、民生委員、家族、施設長、職員が構成委員となり、ホームの取り組み・入居者の状況・ヒヤリハット・事故報告を行い、各委員の意見や要望を聞き運営に活かしている。書面会議の際は委員の方達へ運営推進会議録を持参し、署名・意見・要望をいただき、次の運営推進会議に諮り、運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席や生活保護等の公的扶助を受けられている入居者の担当者へ必要な情報提供を行い、助言等を頂きながら協力体制を取っている。	運営推進会議への出席や生活保護等の公的扶助を受けられている入居者の担当者へ必要な情報提供を行い、助言等を頂きながら協力体制を取っている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し、ホームの取り組みを知らせている。市の担当職員が生活保護受給の入居者を訪問し、生活の様子を知らせたり、入居者の介護保険更新の時には職員が介護保険課に出向いて手続きを行い、不明な点は相談・確認するなど協力関係を築き取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せずチャイムで対応している。見守りを重視する事により行動制限を行う事がないよう努めている。やもう得ず身体拘束を行わなければならない場合は、ご家族と話し合いを重ね最小限の時間で行う事としている。職員は身体拘束について正しく理解している。	玄関は施錠せずチャイムで対応している。見守りを重視する事により行動制限を行う事がないよう努めている。やもう得ず身体拘束を行わなければならない場合は、ご家族と話し合いを重ね最小限の時間で行う事としている。職員は身体拘束について正しく理解している。	運営推進会議の構成委員が身体拘束廃止委員会の委員となっており、2カ月毎に同委員会を開催している。職員は本年10月25日に「高齢者虐待防止と身体拘束の問題」のリモート研修を受講し、資料は他の職員にも回覧して身体拘束の対象となる具体的な行為の理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員はそれぞれ自分の言動に責任を持ち、身体や言葉による虐待を行わないよう努めている。また、全職員に対し虐待する事が無いよう周知徹底を図っている。	職員はそれぞれ自分の言動に責任を持ち、身体や言葉による虐待を行わないよう努めている。また、全職員に対し虐待する事が無いよう周知徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年も外部研修へは参加できませんでしたが、資料の回覧等で制度の理解に努め学習している。また、制度を利用されている入居者の担当者とも情報の共有を行っている。12月に成年後見センター主催のリモート会議への出席を予定しています。	今年も外部研修へは参加できませんでしたが、資料の回覧等で制度の理解に努め学習している。また、制度を利用されている入居者の担当者とも情報の共有を行っている。12月に成年後見センター主催のリモート会議への出席を予定しています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族に施設見学に来て頂き説明を行っている。契約時には重要事項等を説明し了承を得たうえで契約している。不安や疑問点は何時でも相談して下さるようお伝えしている。 また、制度改正等がある場合は、その都度説明し同意を得ている。	入居前にご家族に施設見学に来て頂き説明を行っている。契約時には重要事項等を説明し了承を得たうえで契約している。不安や疑問点は何時でも相談して下さるようお伝えしている。 また、制度改正等がある場合は、その都度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回利用者の生活状況を記載した風の森だよりを発行しコミュニケーションを図っています。また、ご家族との面会時や運営推進会議等での意見・要望をお聞きしています。要望・意見については可能な限り運営に反映させている。	2か月に1回利用者の生活状況を記載した風の森だよりを発行しコミュニケーションを図っています。また、ご家族との面会時や運営推進会議等での意見・要望をお聞きしています。要望・意見については可能な限り運営に反映させている。	入居者・家族の意見要望は運営推進会議・面会・電話連絡を通じて把握している。家族から「入居者を散歩に連れて行ってほしい」と要望があり、職員間で話し合いの上、好天時は車イスの方も含めホーム敷地内を職員と一緒に散策している。2ヵ月1回、ホーム便りを発行し、入居者の様子などを写真に載せて知らせており、家族の喜びと安心になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中で職員の自由な意見や、全体会議・ユニット会議で意見や要望を聞いています。職員提案の企画やイベントを運営に反映しています。	日頃の業務の中で職員の自由な意見や、全体会議・ユニット会議で意見や要望を聞いています。職員提案の企画やイベントを運営に反映しています。	管理者は職員意見や要望は、全体会議・ユニット会議にて聴取している。業務の中でキャスター付リクライニングチェアが必要になり、職員間で話し合い、管理者から施設長へ伝達し購入した事例を確認することができた。翌月の勤務体制や有休休暇の取得について、施設長及び管理者には相談しやすい環境である。無資格の職員は10月～12月に開催される認知症介護基礎研修に参加予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、職員と何でも話せる関係を大切にしてコミュニケーションを図っている。 目標に対しての自己評価や個人面談を行っており職場環境や条件整備に努めている。	勤務状況を把握し、職員と何でも話せる関係を大切にしてコミュニケーションを図っている。 目標に対しての自己評価や個人面談を行っており職場環境や条件整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症対策でリモート研修へ参加し、経験を多く積んだ職員が他の職員を指導しており、全体会議等でも職員間で情報共有を行っている。	感染症対策でリモート研修へ参加し、経験を多く積んだ職員が他の職員を指導しており、全体会議等でも職員間で情報共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島認知症対応型共同生活介護連絡協議会に加入し、同業者同士のネットワークづくりや勉強会等を行い、サービスの質の向上に努めている。	島原半島認知症対応型共同生活介護連絡協議会に加入し、同業者同士のネットワークづくりや勉強会等を行い、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が何でも話しやすい様にコミュニケーションをとり、やりたい事・困っている事に気づき、安心して過ごして頂けるように努めている。また、居室で過ごされている入居者には、孤独にならないように常に声掛けを行いながら信頼関係を築いている。	入居者が何でも話しやすい様にコミュニケーションをとり、やりたい事・困っている事に気づき、安心して過ごして頂けるように努めている。また、居室で過ごされている入居者には、孤独にならないように常に声掛けを行いながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活スタイルやご家族の要望をお聞きしている。入居後は面会時や電話等で現状報告を行い信頼関係を築いている。	入居前の生活スタイルやご家族の要望をお聞きしている。入居後は面会時や電話等で現状報告を行い信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居が決定した時点でアセスメントを作成し、本人・ご家族の要望をお聞きし、どのような支援が必要か見極めケアプランを作成している。	入居が決定した時点でアセスメントを作成し、本人・ご家族の要望をお聞きし、どのような支援が必要か見極めケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	精神状態や身体状態を勘案し、日常生活の中で人生の年長者と尊敬し、洗濯物干し・たたみ、新聞折り等一緒に出来る事はお手伝いして頂きながら和やかに過ごしている。	精神状態や身体状態を勘案し、日常生活の中で人生の年長者と尊敬し、洗濯物干し・たたみ、新聞折り等一緒に出来る事はお手伝いして頂きながら和やかに過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心身の健康状態や生活の様子など機会ある事に報告している。 また、入居者の思いを把握し、楽しく生活が出来るよう支援している。	心身の健康状態や生活の様子など機会ある事に報告している。 また、入居者の思いを把握し、楽しく生活が出来るよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若い時の話や思い出話は傾聴するようにしています。現在、感染症の為、自由な外出が出来ませんが、ご家族等の訪問時には出来るだけ安全に玄関での短時間の面会や電話を活用し関係が遠くならない様に努めている。	若い時の話や思い出話は傾聴するようにしています。現在、感染症の為、自由な外出が出来ませんが、ご家族等の訪問時には出来るだけ安全に玄関での短時間の面会や電話を活用し関係が遠くならない様に努めている。	コロナが第5類になり、来訪者との面会はマスク・手指消毒・検温を行い、玄関で10分程度の会話ができるよう取り組んでいる。難聴の方には毎週面会に訪れる親族が手紙の受け渡しにて関係継続を支援している。また、携帯電話で家族と自由に会話をしたり、帰宅願望がある方は家族が訪れて自宅の仏壇参りに連れて行くなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有のリビングスペースがあり、行事の時は声掛けし出来るだけフロアに出て頂き、孤立されないよう心掛けています。性格や互いの共通性を把握し、気の合う同士の交流が楽しめるよう、また、トラブルにならないように席を工夫したりして共同生活が円滑になるよう支援に努めている。	共有のリビングスペースがあり、行事の時は声掛けし出来るだけフロアに出て頂き、孤立されないよう心掛けています。性格や互いの共通性を把握し、気の合う同士の交流が楽しめるよう、また、トラブルにならないように席を工夫したりして共同生活が円滑になるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて訪問や電話連絡を行い、本人同意の上、介護支援専門員やサービス提供事業者への情報提供を行っている。	必要に応じて訪問や電話連絡を行い、本人同意の上、介護支援専門員やサービス提供事業者への情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から一人ひとりの性格や趣味等を観察し、その人らしい思いや暮らし方を考え、ご家族に情報提供をお願いし職員間で共有しケアに繋がっている。	会話の中から一人ひとりの性格や趣味等を観察し、その人らしい思いや暮らし方を考え、ご家族に情報提供をお願いし職員間で共有しケアに繋がっている。	入居者の思いや暮らしの希望は、職員が本人の顔の表情や仕草を観察し、会話の中から思いや意向の把握に努めている。難聴の方には適宜筆談を用いるなどして思いや意向を把握している。帰宅願望がある方にはこれまでの生活歴を考慮して食事の準備を手伝ってもらったり、外出して気分を紛らわすなど支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族より情報を収集し記録している。 また、入居者様との会話を通して情報を得るなどしてこれまでの生活が継続できるよう努めている。	入居者様やご家族より情報を収集し記録している。 また、入居者様との会話を通して情報を得るなどしてこれまでの生活が継続できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの毎日の生活の過ごし方や様子を注意深く観察・記録し、申し送りすることで小さな変化等を見過ごすことなく現状把握に努めている。	入居者一人ひとりの毎日の生活の過ごし方や様子を注意深く観察・記録し、申し送りすることで小さな変化等を見過ごすことなく現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度ケア会議を行い、担当職員が入居者の状態を報告し、御家族・入居者の意向を重視し、全員で話し合いながら3ヶ月毎にプランを見直し、状態に沿った新しいプランを作成している。 課題が生じた場合は、その都度アセスメントを行い見直ししている。	月に一度ケア会議を行い、担当職員が入居者の状態を報告し、御家族・入居者の意向を重視し、全員で話し合いながら3ヶ月毎にプランを見直し、状態に沿った新しいプランを作成している。 課題が生じた場合は、その都度アセスメントを行い見直ししている。	ケアマネージャーがA棟・B棟の介護計画を作成している。入居時にアセスメントを実施し、ホームでの暮らし方の希望を把握している。担当職員が入居者の状態を把握し、ケアのあり方を職員間で話し合った上で入居者の現状に沿った介護計画を作成している。介護計画は3ヶ月毎に見直して状態変化があった場合には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づきやケアプランのチェックを行い個人別に記録し、申し送り等で問題点や日々の変化等を職員間で共有している。 また、毎日のケアを検討し、実践の見直しやケアプランの見直しを行っている。	日々の様子、気づきやケアプランのチェックを行い個人別に記録し、申し送り等で問題点や日々の変化等を職員間で共有している。 また、毎日のケアを検討し、実践の見直しやケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々入居者やご家族のニーズを汲み取り、月に1度のケア会議で話し合い、入居者のニーズに応じて柔軟なサービスの検討、支援を行っている。	その時々入居者やご家族のニーズを汲み取り、月に1度のケア会議で話し合い、入居者のニーズに応じて柔軟なサービスの検討、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との触れ合いを大切にしている。 消防署、地元消防団、地域の方の協力を得て、災害時の避難方法など指導頂き、安心安全な暮らしが出来るよう努めている。	地域の方々との触れ合いを大切にしている。 消防署、地元消防団、地域の方の協力を得て、災害時の避難方法など指導頂き、安心安全な暮らしが出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族が希望する病院との連携を図り、御家族と職員が協力して受診支援を行っている。 歯科については訪問診療にて対応している。 体調の変化があれば、その都度主治医に相談し受診できる体制を取っている。 ご家族へは随時報告を行っている。	入居者やご家族が希望する病院との連携を図り、御家族と職員が協力して受診支援を行っている。 歯科については訪問診療にて対応している。 体調の変化があれば、その都度主治医に相談し受診できる体制を取っている。 ご家族へは随時報告を行っている。	入居時に入居者及び家族の了承を得て協力医をかかりつけ医としている。入居前のかかりつけ医を継続して受診する方もいる。毎月、協力医が訪問診療に訪れている。入居者の体調変化時は、職員が受診の前に電話連絡して入居者のバイタルや症状を知らせ、適切な医療を受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション菜の花と医療連携の体制を取っている。 往診時に適切な情報を医師に報告している。 日々の気づきや体調の変化があった時は、その都度相談しその方に合った支援が行えるようにしている。	訪問看護ステーション菜の花と医療連携の体制を取っている。 往診時に適切な情報を医師に報告している。 日々の気づきや体調の変化があった時は、その都度相談しその方に合った支援が行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は付き添い、施設や病院での情報を交換し、入居者が安心して治療や退院後の生活が出来るよう支援している。	入院時は付き添い、施設や病院での情報を交換し、入居者が安心して治療や退院後の生活が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と密に話し合いをもち、施設で出来る事を十分に説明しながら方針を共有し支援に取り組んでいる。入居者に最善のケアが行えるよう勉強会等で知識・技術の向上を図っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と密に話し合いをもち、施設で出来る事を十分に説明しながら方針を共有し支援に取り組んでいる。入居者に最善のケアが行えるよう勉強会等で知識・技術の向上を図っている。	看取り指針を整備しており、家族より看取り支援の希望があれば実施する意向である。入居者の重度化に伴い、意見確認書を用いて家族へ確認し、医師・本人・家族・看護師・職員と話し合いの上今後の方針を共有して看取りを行っている。尚、今年度は看取りに関する勉強会は実施していなかった。	看取り支援において職員の精神的不安も生じることが想定される為、看取り支援の研修会の実施や、看取り支援後の職員の精神的負担を把握し、必要に応じて職員ケアを実施するなど今後の取り組みに期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や災害時に備え、職員の連絡網を作成し、月1回の会議で課題や問題点について話し合いを行っている。応急手当等についてはマニュアルを作成し実践している。また、ヒヤリハットの時点で未然に事故を防ぐよう努めている。	事故発生時や災害時に備え、職員の連絡網を作成し、月1回の会議で課題や問題点について話し合いを行っている。応急手当等についてはマニュアルを作成し実践している。また、ヒヤリハットの時点で未然に事故を防ぐよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	緊急時の対応マニュアルを定期的に目を通して。年2回消防署の指導を受けながら、担当を決めてスタッフ全員参加による消防訓練を行っている。また、地域の方たちにも協力してもらえるよう体制を築いている。火災等を未然に防ぐため、建物・消火設備器具・消防用設備点検等を月1回実施している。	緊急時の対応マニュアルを定期的に目を通して。年2回消防署の指導を受けながら、担当を決めてスタッフ全員参加による消防訓練を行っている。また、地域の方たちにも協力してもらえるよう体制を築いている。火災等を未然に防ぐため、建物・消火設備器具・消防用設備点検等を月1回実施している。	消防計画書に基づき、年2回消防避難訓練を消防署職員の立ち合いの下実施している。職員の役割分担を明確にし、備蓄品の保管場所や定期的に緊急時対応マニュアルにも目を通し、有事に備え対応できるよう職員全員で取り組んでいる。自治会に声を掛け、有事の際の協力体制を築いている。BCP(業務継続計画)も作成している。	今後、消火器操作訓練を企画し、全職員が消火器操作ができるよう訓練することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬う気持ちを忘れずに接している。プライバシー保護の為、個人情報等には特に注意している。	一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬う気持ちを忘れずに接している。プライバシー保護の為、個人情報等には特に注意している。	職員は入居者を個人として尊重し、プライバシーを守り安心と尊厳のある生活を送れるよう支援に努めている。接遇研修会は実施していないが、管理者は全体会議開催時や不適切な言葉づかいを見かけた際は、言葉づかいに注意するよう話をしている。入居契約時に入居者写真掲載の同意を得ている。尿失禁があった場合は人前で恥ずかしい思いをさせないよう小声で声掛けして羞恥心に配慮している。	実施や参加できていなかった研修(接遇研修等)について、次年度の年間研修(勉強会)計画に組み込み、職員の意識づけに繋げるなど、計画的に取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で本人の思いや希望を汲み取るようにしている。また、言葉が不自由な方については表情を読み取り支援している。	日常生活の会話の中で本人の思いや希望を汲み取るようにしている。また、言葉が不自由な方については表情を読み取り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に配慮しながら、本人の気持ちを尊重し希望に沿った支援をしている。	その日の体調に配慮しながら、本人の気持ちを尊重し希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者のこだわりや季節に合った身だしなみができるよう支援している。入浴後の洋服についても要望を聞いて準備している。また、定期的に理容師に訪問して頂き、希望の髪型に切って頂いている。	入居者のこだわりや季節に合った身だしなみができるよう支援している。入浴後の洋服についても要望を聞いて準備している。また、定期的に理容師に訪問して頂き、希望の髪型に切って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、入居者の好みや嫌いなものを把握し提供している。時間が掛かる方については早めに提供し、個々のペースでゆっくり摂取頂いている。また、食後のテーブル拭き等のお手伝いもして頂いている。	食事が楽しみなものになるよう、入居者の好みや嫌いなものを把握し提供している。時間が掛かる方については早めに提供し、個々のペースでゆっくり摂取頂いている。また、食後のテーブル拭き等のお手伝いもして頂いている。	食事は職員が献立を立て、旬の野菜を用いて調理している。行事食として正月にはおせち、誕生日にはプリンアラモード、彼岸には入居者と一緒におはぎなどを楽しまれている。おやつ作り、テーブル拭きなどの手伝いは、入居者が力を発揮して職員と一緒にやっている。入居者と職員が明るく楽しい雰囲気の中で同じ食事を楽しんでいる様子が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食・キザミ食等入居者に合った形態で提供している。また、嚥下状態が悪くなった際には、ミキサー食やトロミ剤を使用する等直ぐに対応できる様準備している。食事・水分の摂取量の低下気味の方には、高カロリー飲料を飲んで頂いたり、状態によっては医療に報告・相談している。	普通食・キザミ食等入居者に合った形態で提供している。また、嚥下状態が悪くなった際には、ミキサー食やトロミ剤を使用する等直ぐに対応できる様準備している。食事・水分の摂取量の低下気味の方には、高カロリー飲料を飲んで頂いたり、状態によっては医療に報告・相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、自力で出来ない方には職員が付き添い出来ない部分の介助を行っている。夜間、義歯は洗浄剤を使用し清潔を保っている。	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、自力で出来ない方には職員が付き添い出来ない部分の介助を行っている。夜間、義歯は洗浄剤を使用し清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表にてチェックを行い、その方の排泄パターンを把握している。自らトイレに行かれない方に声掛けを行ったり、トイレまで誘導し介助を行ったりと、その方に合わせた支援を行っている。	排泄記録表にてチェックを行い、その方の排泄パターンを把握している。自らトイレに行かれない方に声掛けを行ったり、トイレまで誘導し介助を行ったりと、その方に合わせた支援を行っている。	排泄記録表に記録し、入居者の排泄パターンを把握している。入居者の状態に合わせて個別誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援に努めている。夜間は職員間で相談し、尿漏れしないよう大きめのパットに変更し対応している。夜間はナースコールを使用し、トイレ誘導し安眠に配慮した支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事に野菜を多く取り入れ、バランスの良い食事を心掛けている。また、提供した水分を残さず摂取して頂くよう声掛けを行ったり、運動不足にならないよう毎日ラジオ体操や歩行訓練を行っている。食事量や排便確認を行いながら、必要に応じて主治医へ相談を行っている。	毎日の食事に野菜を多く取り入れ、バランスの良い食事を心掛けている。また、提供した水分を残さず摂取して頂くよう声掛けを行ったり、運動不足にならないよう毎日ラジオ体操や歩行訓練を行っている。食事量や排便確認を行いながら、必要に応じて主治医へ相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康観察を行い、ゆったりと気持ち良く入浴して頂けるよう、見守りや介助の支援を行っている。 気分がすぐれない時は、清拭や曜日を交えて入浴して頂いている。	健康観察を行い、ゆったりと気持ち良く入浴して頂けるよう、見守りや介助の支援を行っている。 気分がすぐれない時は、清拭や曜日を交えて入浴して頂いている。	5月は菖蒲湯や、12月はゆず湯にて季節を感じながら入浴をゆっくり楽しめるよう支援している。週2回の入浴を基本とし、失禁等があった場合など必要に応じて毎日でも入浴できる態勢である。入浴を拒否する方には時間を変更したり、職員を交えて声かけし、無理強いせず、清拭をして翌日に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活習慣に合わせ、居室やリビングのソファで休息して頂けるよう支援している。 不眠の方に対しては、お話を聞いたり主治医に相談したりして安眠できるよう支援している。	入居者の生活習慣に合わせ、居室やリビングのソファで休息して頂けるよう支援している。 不眠の方に対しては、お話を聞いたり主治医に相談したりして安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の処方内容を把握し、常に確認できるように薬管理表に記録している。 声掛けしながら一人ひとりの服薬能力に応じて、見守り・介助を行い服用後の確認も行っている。	入居者の処方内容を把握し、常に確認できるように薬管理表に記録している。 声掛けしながら一人ひとりの服薬能力に応じて、見守り・介助を行い服用後の確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	声掛けを行い洗濯物干し・たたみ、新聞折りなど手伝って頂き、お礼や感謝の言葉をかけている。 また、レクリエーションの風船バレーでは皆様生き生きとした表情で参加されています。	声掛けを行い洗濯物干し・たたみ、新聞折りなど手伝って頂き、お礼や感謝の言葉をかけている。 また、レクリエーションの風船バレーでは皆様生き生きとした表情で参加されています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策の為、外出は控えてもらい、ドライブや花見・紅葉狩りなどは車窓から見学して頂き季節を感じて頂いています。	感染症対策の為、外出は控えてもらい、ドライブや花見・紅葉狩りなどは車窓から見学して頂き季節を感じて頂いています。	コロナ感染症の状況に応じて、季節の花見に地域の公園に行ったり、雲仙の紅葉狩りを車中から見学したり、写真を撮るなど楽しんでいる。好天時は車イスの方も職員と一緒に敷地を散歩し、気分転換を図っている。職員は入居者の希望を把握し、地域の商業施設へ眼鏡を作り出かけるなど入居者個々の希望に沿った支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない入居者は、御家族からお小遣いを預かり、日用品やお菓子等購入の訴えがあった場合は直ぐに対応できるよう支援している。	金銭管理が出来ない入居者は、御家族からお小遣いを預かり、日用品やお菓子等購入の訴えがあった場合は直ぐに対応できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から電話の要望があった場合は、職員が仲介し支援を行っている。手紙等については投函支援を行っています。	入居者から電話の要望があった場合は、職員が仲介し支援を行っている。手紙等については投函支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは、お話ししたり・ゆっくりテレビが観られるようにソファを置いており、いつでも好きなTV番組が見れるようになっています。玄関先には色とりどりの花が咲いており、施設内では生け花などで季節を感じて頂けるよう努めている。	リビングでは、お話ししたり・ゆっくりテレビが観られるようにソファを置いており、いつでも好きなTV番組が見れるようになっています。玄関先には色とりどりの花が咲いており、施設内では生け花などで季節を感じて頂けるよう努めている。	玄関にはホワイトボードにお知らせを記載し、家族や入居者へ行事内容が分かりやすいよう工夫している。玄関先やリビングには季節の花や生け花を飾り、四季折々の自然を感じられるよう努めている。リビング兼畳の部屋は明るく、入居者はソファにてテレビを見たり、雑談をしてゆっくりと過ごされている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは個人個人が好きな場所に座られ、テレビを観たり・お話をしたりして過ごされている。食事中も楽しく過ごせるように気の合った方々が近くに座れるようにしている。	リビングのソファは個人個人が好きな場所に座られ、テレビを観たり・お話をしたりして過ごされている。食事中も楽しく過ごせるように気の合った方々が近くに座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるようご家族の写真や使い慣れた家具、日用品を持ってきて頂いている。	居心地よく過ごせるようご家族の写真や使い慣れた家具、日用品を持ってきて頂いている。	居室にはテレビ・置時計・家族の写真・整理タンス・三段ボックスなどの手回り品を持ち込み、本人や家族と相談してその方の動線を考慮した居室づくりを行っている。自ら衣類を管理したい方には布で目隠した三段ボックスに衣類を置き、好みの衣服を選び着れるよう支援している。居室は毎日モップをかけ、日曜日に掃除機にて清掃している。空調機器は清掃点検表を作成し、使用初めに清掃し、毎月月初めに点検(清掃)を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器で安全に移動できるように施設内はバリアフリーとなっている。廊下には手すりもあり、入居者の状態に合わせて居室内の手すり等を設置し安全な環境作りを心掛けている。	車椅子や歩行器で安全に移動できるように施設内はバリアフリーとなっている。廊下には手すりもあり、入居者の状態に合わせて居室内の手すり等を設置し安全な環境作りを心掛けている。		